九州歯科大学第七十二回卒業式及び第一四二回学位記授与式

式辞

　現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、感染症法のもと第5類に分類されましたが、市中では、第10波のピークのなか、感染防止対策の継続が求められています。あわせて、今年度は、インフルエンザがきわめて早い時期から流行の兆しを見せ、これまで、多くの感染者が確認されています。医療系大学として、COVID-19 のみならず季節性インフルエンザなどさまざまな感染症に対する予防を実践し、教育・研究・診療の場において、学生・教職員が安全・安心な環境のもとで修学、就業できることを最優先に考えて大学を運営してきました。当然のことながら、大学附属病院を受診する患者の皆さんに対しても十分な配慮を心掛けております。本日、卒業式に臨んでいる歯学科6年次生及び口腔保健学科4年次生は、このような環境のもとで、適正にCOVID-19及びインフルエンザワクチン接種を受け、実習生として臨床実習で多くのことを学び、今日を迎えることができました。

今年度の卒業式及び大学院学位授与式も、感染症予防ということを鑑み、「新たな生活様式」のもとで三密回避に配慮した式次第で執り行います。そのようななか、本日、ここに、服部誠太郎福岡県知事及び香原勝司（こうはら　かつじ）福岡県議会議長のご出席を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。一方、各種感染症の現況を鑑み、来賓各位ならびに保護者の皆さまに対しては、オンラインでご覧いただく環境を調えました。本学に入学以来、成長を見守ってこられた皆様方のお歓びは一方ならぬものと拝察しております。今年度も、直接、会場に出席することができないもどかしさを感じられているかと思います。あらためて、保護者の皆さまに対して諸事情をご理解いただき、本日は、この場にて心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科72期生及び口腔保健学科11期生及び大学院修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日まで過ごした大学での思い出がつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが溌剌として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士及び口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本

学で培った歯科医療に関する知識・技能・態度をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。さらに、本学での教育が感染予防という観点から、これまでとは異なる環境で展開されてきました。そのようななかで学び、今日の卒業式に臨んでいる学生諸君に対して、これから歯科医療人として口腔保健医療活動に従事するにあたり、「宿命に挑み、夢見て行う」という言葉を贈ります。ぜひ、この思いを胸に抱き、いかなる状況においても、歯科医療人として、常に前向きにチャレンジする精神と豊かな人間性をもってお励みください。

九州歯科大学は、2015（平成27）年10月、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人育成教育を推進してきました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成26年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。

この憲章のもと、本学では、2つの学科及び大学院それぞれに、卒業コ

ンピテンシーを定め、アウトカムを重視した学部教育を展開しています。まさに、このような特徴的な実践教育を展開している本学で学修してきた皆さんは、大学卒業後、あらたな組織で歯科医療人として活動するにあたり、その基盤となる「知識・技能・態度」はしっかりと身についていると評定されました。このことを矜持として胸に刻み込み、これから先、いかなる状況においても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、歯科医療人として励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技能ならびに高い倫理観をもって行動する社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かいご支援のもと、これまで通り、学部及び大学院教育を通して、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。

2014（平成26年）年5月に創立百周年記念式典を開催し、その後、次なる100年を目指して整備した九州歯科大学基金を活かし、九州歯科大学はあらたに Global and Local Academic Collaboration を掲げ、アジア諸外国や欧米の歯科教育機関との間で締結した教育連携協定を軸

に、広範な国際連携活動を展開してきました。しかしながら、COVID-19 パンデミックの影響を受け、ここ数年間、諸外国との海外交流派遣事業はオンラインで代行してきました。そして、今年度、諸外国の感染状況を分析し、海外学生交流活動に関しては、タイ及び台湾との交流を再開し、実りある形で終えることができました。これからも、安全な環境のもと双方向型の海外学生交流活動がより充実することを切に願っています。

現在、我が国の全ての大学は、学校法のもとで、国が定める認証評価機関による第三者評価である大学機関別認証評価を7年以内に1回、受審することが義務付けられています。本学は、これまで、大学機関別認証評価をしっかりと受けとめ、PDCA サイクルのもと内部質保証の視点に立ち教育改善を推進してきました、本学は、これまで、大学改革支援・学位授与機構の大学機関別認証評価を3回受審していますが、直近の2022（令和4年）度の評価では、全ての基準に達しているということに留まらず、改善に向けた大学運営のなかで、アウトカム基盤型教育に基づく教育活動に対して、きわめて高い評価を得ることができました。今年度の卒業生の皆さんは、今回の大学機関別認証評価で高い評価を受けたアウトカム基盤型教育のもとで学び学位記を取得し、今日の卒業式に至ったという

ことでは、真に栄えある卒業生です。本学の教職員を代表して、本日卒業する皆さんが、近い将来、歯科医療界を牽引する人材となると信じています。

現在、医療改革の流れのなかで、我々歯科医療人には、これまでの歯科診療所での歯科医療活動に加えて、多職種連携を通じて地域住民の健康増進に貢献することが強く求めらています。本学は、すでに北九州市内の複数の医科病院と教育連携協定を結び、歯学科及び口腔保健学科の実習生は在学中に医科病院での臨地実習を経験しています。この教育システムは、近い将来を見据えてアウトカム基盤型教育の一環として取り入れたものであり、全国的にも新たな試みと評価されたところです。したがって、卒業生諸君は、歯科医師と歯科衛生士からなるオーラルヘルスチームの医療活動の重要性を学んだという誇りをもって、卒業後の歯科医療活動において、医科と同調した形で地域包括ケアシステムに参画することを強く望みます。

さて、本日、かくいう私も、公立大学法人化して以降、6年間の歯学部長、12年間の理事長・学長としての役職を務め、本年3月31日をもって、

学外にて新たな道を歩むことになりました。なかでも、12年間、理事長・学長として、歯学教育を取り巻く環境の大きな変化のなか、公立大学の特徴を活かし、地域に貢献するという観点でプレゼンスを高めるべく、継続した大学改革に取り組んできました。そのようなことを踏まえ、例年の式辞のむすびで、入学生や卒業生の導きとなる先人の言葉を引用してきました。これは、入学生・卒業生の皆さんのみならず、己自信を鼓舞する言葉でもありました。

そこで、今日は、卒業生及び大学院修了生に対して、私が中学生の時に出会った下村湖人（しもむら こじん）著「次郎物語」（第三部）のなかに記されている「白鳥入蘆花（白鳥蘆花に入る；はくちょう、ろかにいる）」についてお話します。先ず、白銀の花が一面に咲き誇る真っ白な蘆の花のなかに、一羽の白鳥が舞い降りる。皆さん、この情景を思い浮かべてください。そして、その舞い降りる姿を想像してみてください。

真っ白な蘆原（あしはら）に、真っ白な白鳥が舞い降りる。すると、その白い白鳥の姿は、白い蘆原の花に混ざって見えなくなる。しかし、白鳥の羽がおこす風によって、いままで眠っていた蘆原が一面にそよぎ出すのです。

このような情景をお伝えし、「白鳥は蘆原に溶け込み目立たなくなるが、静かに確実に周囲に影響を与えていく。このように、周囲に影響を及ぼしながら、自分はその中に入り込んで姿を消すのです。

本日、中学生の頃に読み耽った次郎物語のなかで下村湖人先生が座右の銘とされた言葉、「白鳥蘆花に入る；はくちょう、ろかにいる」を今ここで、皆さんと共有できたことに、この上ない慶びを感じています。

むすびに、卒業生諸君に対し、医学の祖であるヒポクラテスの名言 Art is long, life is short. を改めて紹介します。皆さんは、これから、歯科医療人として大きな志を抱いていると思います。しかし、理想は一足飛びに達成できません。さらに、理想が大きければ大きいほど、長い時間の勉強が必要です。このことを忘れずに、これからの人生において、日々の生活を大切にして、歯科医療人として生涯学習に励み、社会に貢献する歯科医療人となることを願っています。

そして、本日、「白鳥蘆花に入る（はくちょう、ろかにいる）」を紹介したなかに含有されている思い、「ささやかであっても、豊かで夢多き人生」

を健やかな生活のなかで築き上げることを切に願って、本日の私からの式辞とします。

令和6年　3月12日

九州歯科大学

学長　西原　達次